

Ex 754
FILE COPY
RETURN TO ROOM 361

2241-1

同志 M・M リトヴィノフ ノ日記ヨリ

一九三八年七月二十日モスコ駐在日本大使重光氏トノ談話ノ記録ヨリノ抜萃

重光一七月十一日ニソ聯ノ軍隊ハ突然 Chang-chi

湖西方ノ Chang-shu-feng 一帯ヲ占領シ之

ヲ要塞化シ給メタ。之ニ鑑ミ、西代理大使

ハ「ストモニヤコフ」氏ニ對シ異議ヲ申立

テ、コノ地方ヨリソ聯軍隊ノ即時撤收ヲ要

求シタ。「ストモニヤコフ」氏ハソノ抗議

ハ根據ノナイ事デアルト言明シ Khunchun

協定及ビソノ附屬地圖ニ基キ此ノ要求ヲ拒

絶シタ。

新ニコノ問題ヲ研究シタ後、帝國政府ハ私

ニ電報ヲ打ツテ次ノ事ヲ述べル様ニト指令

シテ來マシタ。

此ノ地方ノ國境ヲ定メテキル中ソ協定ニ基

ク資料ニヨルモ、亦滿洲國政府ニアル帝政

ロシヤ時代ノ資料ニヨルモ、コノ領土ハ滿

洲國ニ屬シテキル。ソノ上「ストモニヤコ

フ」氏ノイハレタ Khunchun 協定ニ於テハ、

丁字カラ國境ノ線ハ北西ニ走リ Khasan 湖

ノ西側ニアル山脈ヲ通ツテ砂丘ノ北端ニ及

ンデキル云々、ト。

2241-2

デスカラ Chagach 湖ノ西岸ガ園地ヲナ

シテキル事ハ此ノ點カラモ亦明ラカニ看取

セラレマス。

滿洲國ノ住民ガ毎年彼等ノ宗教儀式ヲコノ

山ノ上デスルトイフ事實ハ、コノ土地ガ滿

洲國ノ所有デアル事ノモウ一ツノ證明ニナ

リマス。

以上ニヨリ、此ノ領土ガ滿洲國ニ屬シテ居ル

モノハ滿洲國ニ屬スル義務ニヨリ日本軍ハソノ義

務ヨリ生ズル措置ヲトリ得ベキ事ハ疑ヒラ

談ム余地ガナイ。

×

リダイン。」「ストモニヤコフ」氏ハ西氏トノ合談ニ

於テ益ク公式警張デアル Chuguchun 協定ト

開闢地圖ヲ出シマス。コレヲノ地圖ノ上

デハ國境線ハ益クハツキリト確定サレテ居

リ、支那代表ノ署名ガアリマス。コノ地

圖ノ上デハ國境線ハアタタノ稱スル Chagach

湖即チ Chagach 湖ノ西又走ツテキマス。

私ニハ、コレヲノ地圖ノ邊出ニヨツテ、コ

2241-3

ノ問題ニ關スル會談ハスベテ終ルモノト思
ハレマシタ。ソシテ私ハ大使カラ日、滿洲
ハ警備ヲ全部ヨク研究シタトキイテ鑒シク
思ヒ、大使ガ日滿ガ可能ナル唯一ノ結論即
チ滿トソノ附近ノ山脈ハソ聯ニ屬スルモノ
トイフ我々ト同一結論ニ到達シタト聞カシ
テ呉レルダラウト思フテキマシタ。不幸ニ
モ日本政府ハ前ノ間違ツタ見地ヲ固執シマ
シタ。大使ハ我輩ノ資料ニ就イテ述ベマシ
タガソノ資料ガ如何ナルモノデアルカイヒ
マセシデシタ。

彼ハ誰モ調査シ得ヌ我輩ノ宗教、儀式ノ事
ヲ述ベタノミデアリマシタ。私達ハソノ問
題ノ正ガ國境ノソビエツト側ニアルト何時
モサウ思フテキタ事ヲ知フテキマス。我ガ
國境守備兵ハ常ニソコヘ派遣サレテキマシ
タ。デスカラ私達ハ斷乎トシテスベテノ異
議要求ヲシリゾケネバナリマセシ。何故ナ
ラバ、私達ハソビエト領土ヲ侵ツテキルノ
ダシ、之ニ對スル他ノ強國ノ權利要求ハ承
認出來ルモノデアナイカラデアリマス。

2241-24

「...大彼ハ兩方ノ自由ニナル環境ノ資料ニ就キ謂ベマシタ。私達ハ私達ノ資料ヲ西ニ使ツテ代表サレテ居ル日本大使館ニ提出シマシタ。私ハソレヲライツデモ閣下ニモ亦提出スル事ヲ出来マス。モシ日本側ガ其ノ資料ヲ提出スルナラバ私達ハ言フデソレヲ研究シマセウ。シカシ今迄ハ私達ハタゞ根據ナキ陳述ト基礎ノナイ要求バカリヲ聞イテ居ルダケデス。

×

重光。私ノ考ヘデハ日本政府ハアタノオ答ヘデハ満足シナイダラウト思ヒマス。先ヅ第一ニアタハ地圖ガコノ論議ノ法律的根據トシテ役立ツテキルヤウニオツシヤツテキマス。シカシ「ストモニヤコフ」氏が西氏ニ示サレタコノ地圖ハ未ダ嘗テ公表サレテナイシ、私ノ氣持トシテハコノ危急ノ際ニ何カノ地圖ノ事ナドモ話スノハ不合理ダト思ヒマス。ソレハ只事情ヲ複雑ニスルバカリデス。

×

2241-4

“...大使ハ兩方ノ自由ニナル或種ノ資料
ニ就キ進ベマシタ。私達ハ私達ノ資料ヲ西
ニ候ツテ代表サレテ居ル日本大使館ニ提出
シマシタ。私ハソレヲライツデモ閣下ニモ
亦提出スル事ガ出来マス。モシ日本側ガ真
ノ資料ヲ提出スルナラバ私達ハ喜ンデソレ
ヲ研究シマセウ。シカシ今迄ハ私達ハタゞ
根據ナキ陳述ト基礎ノナイ要求バカリヲ聞
イテ居ルダケデス。

×

重光。私ノ考ヘデハ日本政府ハアタノオ答ヘデ
ハ満足シナイダラウト思ヒマス。先ヅ第一
ニアタハ地圖ガコノ論議ノ法律的根據ト
シテ役立ツテキルヤウニオツツヤツテキマ
ス。シカシ「ストモニヤコフ」氏が西氏ニ
示サレタコノ地圖ハ未ダ嘗テ公表サレテナ
イッ、私ノ氣持トシテハコノ危急ノ際ニ何
カノ地圖ノ事ナドモ話スノハ不合理ダト思
ヒマス。ソレハ只事情ヲ根據ニスルバカリ
デス。

×

2241-5

トクイン。アタタノヤウナ熟練シタ経験豊かな外
 交官ガ公式ノ範圍ノ事ヲ「何カノ地圖」ダ
 ナド、輕蔑シテオツシヤルノヲ聞イテハ全
 ク驚クヨリ外アリマセシ。御存ジノ通り國
 境ヲ定メルニハ地圖ニ依ル事ガ唯一ノ方法
 デアリマス。

重光。・・・日本ハ滿洲國ニ對シ、不承認ニモ占

領サレタ滿洲國カラソビエト軍ヲ撤退サセル
 タメ實力ヲ行儀スル權利ト義ヲ持ツテキ
 マス。

トクイン。閣下ハ何モ新シイ事ハオツシヤイマセ

シデシタ。唯一ツノ新シイ事ハ彼ガ實力ヲ
 行儀スルトイッテ私達ヲ清カシタ事デス。
 大使ハ明ラカニ清廷職權ヲ侵ナ外交手段
 デアルト考ヘテキマス。遺憾ナガラ世界ニ
 ハ驚カサレタリ清廷サレタリスル國々モ多
 クアリマス。シカシ大使ハオーストリアニ
 追手親デハ成功出来ナイトイフ事ヲ知らネ
 ベナリマセシ。

2241-6

寫シニ聞違ヒナシ。

署名 リトヴィノフ

ソビエト聯邦中央歴史記録保存所長
V・マクサコフ 教授

證 明 書

2241 (cert)

余、中佐 G. I. タラネンコ / TARANENKO G. I. / へ社
會主義ソビエツト共和國聯邦陸軍ノ部員ニシテ、
茲ニ左記ノ如ク證明ス

記

一九三八年ノ昭和十三年七月二十日モスコーニ於
テナサレタル「リトビイノフ」及「重光」間ノ「
ハツサン湖事件」ニ就テノ會談ノ拔萃十枚ハ、一
九四六年三月十三日又ハ其前後ニ於テ社會主義ソ
ビエツト共和國聯邦ノ中央國立歴史記録局ニヨリ
余ニ引渡サレタル事、並ニ該文書ノ原本ハ在モス
コー社會主義ソビエツト共和國聯邦ノ中央國立歴
史記録局ニ所在スト看ラル、事、

(署名及階級) 中 佐 タラネンコ / 署名 /

日本東京ニ於テ

一九四六年六月二十四日